

第2表(小)

学校名 清瀬市立清瀬第四小学校

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- 全教科・領域を通して言語力を育成する。そのために、言語の学習を扱う国語科を各教科の中軸としてカリキュラム・マネジメントを行い、言葉の学習において語彙を増やす指導を強化する。
- 算数の指導において、児童の理解度を見ながら習熟度別の少人数指導を行い、個人の学力格差の解消を図る。
- 全学級で認知力を高めるために「コグトレ」を実施する。「見る・聞く・覚える」ことを通して、集中力も養いながら、認知力向上を図る。
- 一人1台端末やICT機器、学校図書館を効果的に活用し、情報活用能力の充実を図り、児童の意欲を喚起するような活用や、個別最適化された学びを推進する。
- 体力テストの結果を受け、特に数値が低かった柔軟性や敏捷性をはじめとした基礎的な運動能力(走・跳・投)向上を図る。また体育授業では、最低20分間の主運動量を確保して体力向上を図る。
- 月3回程度の「マッスルデー」を設定し、多様な運動に触れる機会をつくり、休み時間の遊びに波及させるなど、日常的・継続的な取組にしていく。
- 図書館運営支援員や市内図書館と連携・協力して図書・書架の整備、学習貸し出しを推進し、学校図書館の「読書・学習・情報センター」としての機能の充実を図る。

イ 道徳科

- 道徳科の時間を全教育活動の要として、児童の発達に応じて、「命を大切に作る心」、「思いやる心」、「善悪を判断する」、「人としての崇高な生き方にふれる」等に重点を置き、6年間を通して関連させて道徳心を育てていく。
- 児童が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きていくための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

ウ 外国語活動

- 3・4年生の外国語活動においては、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに異文化理解及び自国の文化理解を深める。
- 5・6年生の外国語科において、ALT等を効果的に活用して、基本的な表現を読んだり書いたりしてコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

エ 総合的な学習の時間

- 「調べる学習コンクール」に係る学習活動を年間計画に位置付け、探究的学習を通して、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究的な学習についての理解を深める。

オ 特別活動

- 「にこにこ班活動」において、月に1回中休みを活用して、楽しく遊ぶことを通して運動後の爽快な気持ちを実感し、次への意欲につなげる。
- 全校遠足などにおける、縦割り班活動や児童主体の集会活動、また宿泊行事、校外学習の充実により、望ましい集団活動を通して、互いのよさに気づき、認め、励ますことによって、共に向上しようとする豊かな人間関係を育てる。
- オリパラ教育の「レガシー」として、「ボッチャ」競技を通してユニバーサルデザインについて考えを深め、「共生社会」の理念を学ぶ機会とする。